

2026年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
37308	介護初任者研修課程Ⅱ Care for the Elder & Handicapped	梶原稚子・澤井直樹			2	選択	1, 2前期

**科目の概要**

介護職が利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを学び、介護・福祉サービスを提供するにあつたての基本的な視点等を習得することによって、介護の講義の土台になります。特に、介護職に求められる専門性・職業倫理については理解を深められるようにします。(ディプロマ・ポリシー①②③)  
 目標とする介護資格取得の専門的知識・技能(感染・事故防止・コミュニケーション)を習得していきます。(ディプロマ・ポリシー①②③④)  
 (ディプロマ・ポリシー①②③④)

学修内容	到達目標
① 利用者の尊厳のある暮らしを支える介護者の役割について学ぶ。 ② 介護職の専門性、職業倫理について学ぶ。 ③ 介護におけるリスク・対策について学ぶ。 ④ 自立支援・介護予防について学ぶ。 ⑤ 介護職に求められるコミュニケーションについて学ぶ。	① 介護職の役割について考察することができる。(ディプロマ・ポリシー①②③④) ② 介護職の専門性・職業倫理を述べるができる。(ディプロマ・ポリシー①②③) ③ 介護におけるリスク・対策を考察することができる。(ディプロマ・ポリシー①②③④) ④ 自立支援・介護予防を述べるができる。(ディプロマ・ポリシー①②③) ⑤ 介護職に求められるコミュニケーション技法を述べるができる。(ディプロマ・ポリシー①②③④)

**学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素**      **学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例**

前に踏み出す力	主体性	シラバスを活用し、講義内容を予習・復習し、自発的に事後学習ノートを作成する。グループワーク、演習、発表は潤滑に実施できるように事前準備、課題を行って参加する。
	働きかけ力	グループワーク、演習、発表が多いので、効果的に実施できるようにメンバーと協力し、リーダーシップを発揮する。
	実行力	一度やり始めたことは、最後までやり遂げることができる。
考え抜く力	課題発見力	事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができる。
	計画力	グループワーク、演習、発表が多いので、予習復習の計画、段取りを考え実施できる。(バイトが忙しくてできないことは理由として認めません。)
	創造力	講義内容、テキスト、グループワークなどを用いて、従来の考え方に加え、様々な方向から考えることができる。
チームで働く力	発信力	整理した内容を的確な文章で表し、分りやすく発表することができる。
	傾聴力	グループワーク中、メンバーの意見を聴く時、あいづちやうなづきなどの姿勢を取る。場合によっては質問して相手の意見を引き出す努力をする。
	柔軟性	グループワーク、演習が多いので、課題に対し、自分の意見ばかりを主張するのではなく、相手の意見や立場を尊重する。
	状況把握力	グループワークや演習が多いので、課題達成のため、メンバー全員が楽しく参加できるように、自己の役割を考え行動する。
	規律性	遅刻・無断欠席をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	うまく進まない場合、原因を明確にし、課題解決の方法を考える。助言が必要な場合は、誰に何を相談すれば良いのかを考え行動する。

**テキスト及び参考文献**

テキスト：一般社団法人 長寿社会開発センター 第1巻「人間と社会・介護1」第2巻「人間と社会・介護2」←コミュニケーション←漢字が苦手な学生は事前学習できるように、るびつきのテキストをインターネットで長寿社会開発センターから自己購入すること  
 参考文献：なし

**他科目との関連、資格との関連**

他科目との関連：介護初任者研修科目  
 資格との関連：介護初任者研修資格

学修上の助言	受講生とのルール
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎回、シラバスで予習、講義内容、課題の提出、復習は確認すること</li> <li>・ 基本的な用語は暗記すること。覚えることが多いので、シラバスとキーワードのプリントを参考に予習・復習で自己学習ノートを作成すること。テキストを読んで不明なことはAIなど活用して知識を補うこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護職員初任者の資格取得には、評価が「良」以上あること。</li> <li>・ 欠席した分のレポートは、シラバスで講義内容を確認、A4サイズ用紙40×40の文字設定で4枚以上で作成する。</li> <li>・ 講義中の写真撮影は禁止、講師の体験談はSNSにあげないこと(守秘義務を課します)。</li> <li>・ 課題の提出は講義前であり、講義開始後は受け取らない。</li> <li>・ 小テストの欠席は次回講義後に行い、点数は8割換算とする。</li> <li>・ 介護職の発表は必ずレポートを作成、持参して読むこと。</li> <li>・ 評価対象となる日に欠席した場合、</li> <li>①演習と発表の点数は欠席の場合は0点。クラスメイトにどのような発表であるか確認し、次回講義前にレポート提出する場合は内容により評価。</li> <li>②欠席はレポート提出すれば平常点で評価。それ以外は中間と最終日に補習を設定するのでそこで参加すること。採点は8割換算する。</li> </ul>

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	40	①	✓	筆記試験 ・事前にテストに出す内容は伝えるので、テキスト持ち込み禁止	
				②	✓		
				③	✓		
				④	✓		
				⑤	✓		
	平常評価	小テスト		15	①	✓	筆記テスト ・事前にテストに出す内容は伝えるので、テキストの持ち込みは禁止。 ・点数は換算する
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
					⑤	✓	
		レポート		30	①	✓	レポートは3回実施 1回目：高齢者体験を生かし、身体・精神・社会的特徴を考える。（400字以上、3点） 2回目：事件事例から原因・対策を考える。（6点） 3回目リフレクション（再構成）（6点） 4回目：介護観レポート（1200字以上、15点） 評価の基準 ・課題を適切に捉えて意見を述べているか ・テキストを活用しているか ・文字数、誤字はないか
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
					⑤	✓	
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		5	①	✓	・感染予防の技術試験：技術が教員の口頭の助言で習得できる
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
					⑤	✓	
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	<small>（主体性）</small> ・テキストを使い学修内容に沿って、自らノートを作成できる。 <small>（働きかけ力）</small> ・目標が達成できるように、助言を求めることができる。 <small>（実行力）</small> ・小テスト、課題を達成できるように計画的に学習を進めることができる。 <small>（課題発見力）</small> ・到達目標のために自分なりに課題を考えて学修することができる。 <small>（計画力）</small> ・グループワークは時間配分を考え討論できる。 <small>（創造力）</small> ・想定概念にとらわれず、新しい発想のもとに課題に取り組むことができる。 <small>（協働力）</small> ・複数の仕方を工夫してわかりやすく発表できる。 <small>（傾聴力）</small> ・大事なのはメモをとりながら、しっかり聞くことができる。 <small>（柔軟性）</small> ・グループワークでは、他者の意見を認めながら、自己の考えを発表できる。 <small>（責任感）</small> ・自己の行動がグループメンバーに与える影響を考えて、グループワークに参加できる。 <small>（自覚性）</small> ・遅刻、無断欠席など、学修意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守るすることができる。 <small>（礼儀）</small> ・欠席しレポートしない場合、講義を個人的な都合で中断させた場合、1点ずつ減点		
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤	✓			
総合評価割合			100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>(S) 優</p> <p>①介護職に求められる基礎用語が9割程度暗記できている。</p> <p>②介護における安全技術が知識を元実践できる。</p> <p>③グループワーク、発表、演習でリーダーシップを発揮し、助言や他者の意見を参考に自己の課題を分析し、自ら発展できる。</p> <p>(A) 優</p> <p>①介護職に求められる基礎用語が8割程度暗記できている。</p> <p>②介護における安全技術が知識を元に少しの助言で実践できる。</p> <p>③グループワーク、発表、演習で司会などの役割を実践し、助言や他者の意見を参考に自己の課題を分析し、自ら発展できる。</p>	<p>(B) 良</p> <p>①介護職に求められる基礎用語が7割程度暗記できている。</p> <p>②介護における安全技術の習得に知識の助言も必要、技術は助言をして習得できる。</p> <p>③グループワーク、発表、演習でメンバーシップを発揮し、助言や他者の意見を傾聴できる。自己の課題発見に助言が必要である。</p> <p>(C) 可</p> <p>①介護職に求められる基礎用語が6割程度暗記できている。</p> <p>②介護における安全技術が知識・技術ともかなりの助言を要しないとできない。</p> <p>③グループワーク、発表、演習で事前準備が不十分で、1回意見を述べるが、助言や他者の意見を参考に自己の課題を分析できない。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	シラバスの説明 ①ライフサイクル ・介護の対象である人間の存在を意識することで尊厳を考えます ②感染I(手洗い、マスクの着脱) ・withコロナの時代、感染対策が重要です。知識と技術習得ができるようにします。	担当：梶原 講義 デモンストレーション (手洗い、マスクの着脱)	①ライフサイクルの各期の特徴を説明できる。 ②手洗い、マスクの着脱が実施できる。	(復習) p.160～164, 手洗い・マスクの着脱の練習 (予習) p.60～67 (次回準備) 高齢者体験ができる服装、スニーカー準備	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
2	①高齢者体験 ・高齢者体験を通し、身体・精神・社会的特徴を考え、発表します。 ②尊厳と自立 ・高齢者体験の発表とから、尊厳と自立を考えます。 ③日本国憲法、介護保険制度で定められている権利 ・法律の視点から尊厳と自立を考えます。	担当：梶原 発問にて復習 講義 演習(高齢者体験)とグループワーク	①高齢者体験から身体的・精神的・社会的特徴を分析し、発表できる。 ②発表、意見交換から尊厳と自立を考えレポートする。この考えをさらに発展し、介護観のレポートにつなげる。 ③日本国憲法第13条、第25条、介護保険制度第1条を説明できる。	(課題) 高齢者体験レポート (復習) 第1週の予習ページ (予習) p.68～74と155から159	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
3	①エンパワーメント、ICF、QOL、ノーマライゼーション ・尊厳と自立の重要性の背景となる考え方を学びます。 ②感染II(感染のメカニズム、感染の防護の3原則) ・感染の基本を学びます。	担当：梶原 発問にて復習 講義	①エンパワーメント、ICF、QOL、ノーマライゼーションについて述べるができる。 ②感染のメカニズムと感染防護の3原則を暗記する。	(課題) 次回講義までに、高齢者虐待ニュースを調べ、虐待の原因を5つ考えて発表できる準備をする (復習) 第2週予習ページ (予習) p.75～83と158～163 ・テキストp.52～61 第1章第5節～第6節	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性 ストレスコントロール力
4	①虐待防止、身体拘束の禁止 ・高齢者の虐待の特徴、なぜ身体拘束がいけないのかを考えます。 ②個人情報保護法、成年後見人制度、日常生活自立支援事業 ・個人の権利を守る制度について学びます。 ③感染III(スタンダードプリコーション、手袋装着とガウンテクニック) ・スタンダードプリコーションの考え方を学び、手袋とガウンテクニックができるように学びます。	担当：梶原 発問にて復習 講義 虐待の事例から原因を分析した課題を発表 デモンストレーション (手袋装着、ガウンテクニック)	①高齢者の虐待の特徴、身体拘束の禁止の意義、リスクが説明できる。 ②個人情報保護法、成年後見人制度、アドボガシーの名称と目的を暗記できる。 ③スタンダードプリコーションの考えに基づき、感染対策が必要な事例か判断できる。 ④手袋の着脱とガウンテクニックが実施できる。	(課題) スタンダードプリコーションの判断、手袋着脱、ガウンテクニックが演習で、確実に実施できるレベルで練習すること (復習) 第3週予習のページ (予習) p.86～93と164～166	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
5	①自立支援、介護予防、日常生活支援総合事業 ・自立支援の考え方を学びます。 ②洗浄、消毒、滅菌 ・感染防止の方法を学びます。	担当：梶原 発問にて復習 講義	①自立の意味介護予防の段階、日常生活支援総合事業について説明できる。 ②洗浄、消毒、滅菌の意味と方法を暗記する。	(次回) 第1～4回までの小テスト (復習) 第4週の予習ページ (予習) p.96～120	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性 ストレスコントロール力
6	①訪問介護と施設介護サービスの違い、地域包括ケアシステム ・介護サービスの特性を学びます。 ②チームアプローチの意義、介護に関わる専門職の役割、医療・看護の連携 ・介護の専門性とチームアプローチの重要性を学びます	担当：梶原 小テスト(第1～4回)と解説 発問にて復習 講義	①訪問介護と施設介護サービスの違いを説明できる。 ②地域包括ケアシステムの名称と意味を暗記する。 ③チームアプローチの意義と各専門職の役割、医療・看護の連携を説明できる。	(復習) 第5週予習ページ (予習) p.122～144	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
7	①職業倫理、守秘義務、日本介護福祉士会綱領 ・介護職の倫理の重要性について学びます。	担当：梶原 発問にて復習 講義	①職業倫理の重要性、守秘義務、日本介護福祉士会綱領が説明できる。	(復習) 第6週の予習ページ (予習) p.145～154と167	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
8	①介護における事故 ・介護でよく起きる事故、安全体制、ヒヤリハットとインシデント、ヒューマンエラー、ハインリッヒの法則、事故発生時の対応を学びます。 ②感染IV(隔離) ・隔離時の対応を学びます。	担当：梶原 発問にて復習 講義 デモンストレーション (隔離時のガウンテクニック)	①介護でよく起きる事故、リスクマネジメント、ヒヤリハットとインシデント、ヒューマンエラー、ハインリッヒの法則、事故発生時の対応が説明できる。 ②ガウンテクニックが実施できる。	(復習) 第7週の予習ページ。 (課題) 事故事例の事故報告をを作成し次回発表できる準備をする (予習) 次回演習で技術確認しますので練習する	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	①演習：感染対策（手洗い、手袋の着脱、マスクの着脱、ガウンテクニック） ・技能の習得を目指します ②リスクマネージメントを体験することで考え方を学びます。	担当：梶原 発問にて復習 感染対策の技術試験 グループワーク（事例検討：介護事故の原因と対策）	①感染対策（手洗い、手袋の着脱、マスクの着脱、ガウンテクニック、隔離）の技術が科学的根拠に基づき習得できる。 ②事故の原因・対策を考えることでリスクを考察し発表できる。	（課題）第学修内容の技術の反省 （予習）次回よりコミュニケーションのためテキスト変更 p. 12～24	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
10	①コミュニケーションの意義と構造、役割、高齢者や障害者のコミュニケーション能力は個別性が高く、その違いを認識してコミュニケーションをとる必要と方法について学びます。 ②リフレクションの必要性、再構成の方法、再構成の方法を学びます。 ・家族が抱きやすい心理・葛藤を理解した上でのコミュニケーション方法を学びます ・自己のコミュニケーションの傾向を考えるツールです。第13週目に発表します。	担当：梶原 発問にて復習 小テスト（第5～8回分）と解説 講義	①コミュニケーションの意義、傾聴、共感、受容、言語的コミュニケーションと非言語的の区別を説明できる。 ②高齢者とのコミュニケーションの方法、家族心理、主観的客観的情報、バイスティックの7原則を説明できる。	（復習）第9週の予習ページ、再構成を1事例作成する。 （予習） p. 25～52	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
11	①リフレクション（再構成） ・自己のコミュニケーションの傾向を分析します。 ②利用者、家族とのコミュニケーション ・利用者の心理、共感的理解、家族とのコミュニケーションを学びます。 ③高齢者、各障害の特徴を理解した上でのコミュニケーション方法を学びます。 ・障害の特徴を知った上で、効果的なコミュニケーション方法を学びます。 （視覚、聴覚、失語、構音障害）	担当：梶原 発問にて復習 講義 リフレクションの演習	①演習を通して自己のコミュニケーションの傾向と課題を再考察できる。 ②高齢者、障害を持つ高齢者とのコミュニケーションへの配慮と方法を説明できる。	（課題）再構成の分析を見直す （復習）第10週の予習ページ （予習） p. 53～72	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
12	①認知症に応じたコミュニケーション方法 ・効果的なコミュニケーション方法を学びます。 ②チームにおけるコミュニケーションの重要性、チームカンファレンス、サービス会議、報告の方法 ・チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの留意点、重要性を学びます	担当：梶原 発問にて復習 講義	①認知症に応じたコミュニケーション方法を説明できる。 ②チームにおけるコミュニケーションの重要性と方法、報告の方法を説明できる。	（復習）第11週の予習ページ、再構成発表の準備 （予習） p. 73～83	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
13	①リフレクション（再構成）のグループワーク ・他者からの分析を参考に、自己の傾向を再考察します。 ②記録の意義、目的、記入方法、記録の開示 ・記録の重要性と具体的な方法について学びます	担当：梶原 発問にて復習 講義 再構成の発表、グループワーク	①再構成を通じて他者の思考を考察することにより、自己のコミュニケーションの傾向を再度分析する。 ②記録の意義と方法（SOAPA）、記録開示を説明できる。	（課題）介護観のレポートを2部印刷した上で講義に参加して下さい。 （復習）第12週の予習ページ （予習）テキスト1に変更。 p. 170～183	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
14	①健康管理とストレスマネジメント、労働法 ①介護職の心身の健康管理について学び、自己のストレスの対処方法を考えます ②介護観の発表 ・講義の学びを学生の体験と結びつけて考察します。 ・尊厳、自立をふまえて自分の介護に対する考え方を発表します。 ・他者の意見を聴いて自分の考えが発展する姿勢を養います。	担当：梶原 発問にて復習 講義 発表、意見交換（介護観）	①介護職の心身の健康障害、ストレス対策を述べる事ができる。 ②講義を通してどのように介護観が変わったのかを発表することで、介護職の核となる考え方を身につける。	（復習）第13週の予習ページ。 （期末試験）期末試験に出題するポイントは講義中に伝えていきますので、試験に向けて学習して下さい。レポートの修正の最終提出は期末試験です。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
15	障害の基礎的理解	講義 （担当 澤井）	障害の概念とICF、障害者福祉の理念について概説できる。	（予習）教科書を読んで、障害者福祉の概念についてまとめる。 （復習）障害者福祉の理念をまとめる。	180	課題発見力 発信力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力